＜口腔の役割＞

ナイチンゲールが残したもの

フローレンス・ナイチンゲールは 1820 年、イギリスの上流階級の家に生まれます。裕福な家庭に育ち、幼少期から優秀な家庭教師による英才教育を受けています。12 歳からは語学だけでなく数学や歴史を多く学び、とても優秀だったと言われます。16 歳になったナイチンゲールは家の建て替えの間にヨーロッパに家族旅行をすることになります。そんな中、イタリアで目にした馬車の窓から見える、粗末で汚れた服を着る当時の労働者夫婦や子どもたちの姿は彼女の心を痛めました。17 歳のある日、いつものように日記をつけていると、「神に仕えなさい」と突然神様の声が聞こえたと言われています。貧しい村で病気や飢えで苦しむ人々への奉仕活動を続けるうちに看護師になり、人を助けることが自分の使命と気づきます。しかし、上流階級である彼女の家族からは猛反対されます。当時の看護師は地位が低く、上流階級の若い娘は社交会に出て結婚するのが務めで、職業に就くことは考えられませんでした。しかし彼女の意志は強く、くじけませんでした。

チャンスは 30 歳の時にめぐってきます。両親を説得し、憧れのドイツのカイザーヴェルト学園を訪れることができたのです。そして看護法を学びます。

1854 年、クリミア戦争（ロシアとトルコの間の戦争で、イギリスはフランスとともにトルコに味方してロシアと戦った）が勃発します。次第に戦況が悪化、34 歳の彼女はイギリス政府によって 40 人の看護師団のリーダーとして戦地に派遣されます。野戦病院では骨身を削って看護活動に励み、病院の衛生状況を改善することで兵士の死亡率を劇的に下げました。目を見張るほどの活躍ぶりと兵士に接する優しい態度から「戦場の天使」と呼ばれました。約 2 年間の戦争が終わり、イギリスに帰った次の年、彼女は過労で倒れてしまいます。それ以後、彼女は 90 歳で亡くなるまでの間、ベッドの上で暮らすことになります。ベッドの上では戦争の体験をもとに現在の看護の基本となる「看護覚え書」を執筆し、セント・トーマス病院内に看護学校を開校し、専門的な教育を受けた看護師たちを世界中に送り出します。

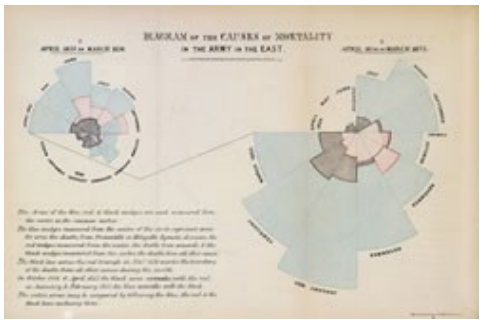
と、ここまでは伝記の通り「近代看護教育の生みの親」として知られるところですが、実は彼女が「統計」と深い関りがあることはあまり知られていません。

ナイチンゲールはクリミア戦争から帰ると、統計の知識を駆使してイギリス軍の戦死者、負傷者に関する膨大なデータを分析し、戦死者の多くは負傷によるものではなく、病院の不衛生や伝染病が原因で死亡したことを明らかにしま

した。彼女が取りまとめた報告は、王室や政府の役人でも直観でわかるよう、当時では画期的なカラーの円グラフや図を開発し、陸軍病院の衛生状態の改革を訴えます。結果、王室とイギリス政府を大きく動かします。陸軍病院だけでなく、兵舎の改革、そして市民生活の中での衛生状態が改善されることとなり、これはのちに世界に発信され、現代看護と医療の基礎となっていきます。

当時、ナイチンゲールが強く主張したことは、「ソーシャルディスタンス」を保ち、「密集」しないこと。そして常に換気を行い「密閉」しないこと。これは現在のコロナ禍にも通じます。

昨年はフローレンス・ナイチンゲール生誕 200 年です。外出自粛の中、ここはひとつ彼女の伝記を読んでみるのも良いかもしれません。

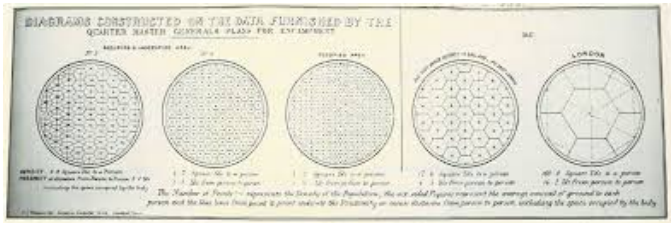


グラフ「鶏のとさか」

クリミア戦争での死因を表す円グラフ。戦闘による負傷よりも不衛生と伝染病による死亡が圧倒的に多い。

兵士と一般市民の「人口密度」の比較

左側 3 つの円には軍の規格による 3 タイプの人口密度、右側 2 つの円は一般市民の人口密度。ロンドンで最も人口密度が高いイースト・ロンドンが左、ロンドンの一般市民が右。兵士たちがいかに密集しているかがわかります。



“バービー・インスパイアリングウーマンシリーズ”
生誕 200 年記念「フローレンス・ナイチンゲール」（アメリカ、マテル社　2019 年製）

夜回りを欠かさなかったことから「ランプ」を手に持つナイチンゲールのバービー人形

左下には英語で「先駆的な看護師そして統計学者」と記載されているのが印象的です

【歯科口腔外科診療部長　今井　正之】